

2024年6月26日

学校法人三幸学園
大阪ビューティーアート専門学校
校長 真野 正道 殿

学校関係者評価委員会
委員長 木田 康隆

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 木田 康隆 (ステーションカンパニー株式会社 取締役副社長)
- ② 村田 真利亜 (第6期卒業生)
- ③ 荒川 悠子 (株式会社ガモウ関西 人材サポート部チーフアドバイザー)
- ④ 西寺 志裕子 (飛鳥未来高等学校大阪キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年5月28日 (会場 大阪ビューティーアート専門学校 406教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 大阪ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：サブマネージャー 笠原 美聡

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 木田 康隆

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2023 年度においてはコロナ禍前と同様の学校運営ができるようになり、学校行事は従来の様式で実施することができた。美容業界のプロによる講話やデモンストレーションを年間通して実施することにより、向上心や意欲が途切れないよう取り組みを実施。意識の高い生徒達は勿論、資格試験や就職活動でのモチベーション維持が困難な生徒達の心にも響く内容となった。また、2022 年度に引き続き、リアルとデジタルを組み合わせたオンデマンド配信、デジタル教科書の採用など、ICT を活用した授業展開も継続すると共に、国家試験の課題対策として VR ゴーグルを活用した実習授業、AI 搭載のデジタル問題集を導入するなど、今まで以上に予習や復習がしやすい教育スタイルを実現。

また、教員も ICT 教育の導入に慣れてきたこともあり、授業の中でも実践と ICT を組み合わせによりわかりやすい授業を実施出来るようになった。

2022 年度に引き続き、生徒たちの心の問題に対するケアや合理的配慮に関してもフォローが必要となっている。対策として心の相談室を推奨している。また、2024 年 3 月に実施された三幸学園キックオフミーティングでは、『学習に困難さを感じている生徒がいた場合であっても、興味関心をひく授業展開とはどのようなものか』というテーマで講演が実施された。最近の若者たちの特徴を講演いただき、生徒たちの年代が授業に何を求めているのか、何が嫌で何を好むのかなど、生徒指導をしていく中で大変参考になる内容だった。教員も何を教えたかということから、生徒が何を出来るようになったかといふようにシフトチェンジが必要になってきている。

② 学校関係者評価委員会コメント

西寺委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

高校でも、ICT 導入が行われており教員も ICT に対する学びが必要になってきている。

また、多様性が問われる時代であり、様々な生徒もいるので合理的配慮に関しては力を入れている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

専門学校での教育を進めていく中で、生徒本人の美容を学びたいという気持ちがとても大切である。しかし、入学当初より夢があり目的や目標を持って入学してくる生徒も多いが、反面少数ではあるがなんとなく美容が好きという観点で入学してくる生徒もいる。入学後のオリエンテーションから学校での目標に留まらず、将来の自分の姿を想像し美容業界で働くことが楽しみになるように授業、行事の両面から生徒たちをサポートする必要がある。また、学びに対する気持ちを上げる為にも、学びを選択し興味あるものを深く学べる環境を増やしていきたい。

② 今後の改善方策

一流のプロによる講話や技術のデモンストレーションなど、2年間の教育の流れを点ではなく繋がりを持たせ向上心や意欲が途切れないようサポートしていく。また、上位層の生徒たちの活躍の場として、様々な委員会に加えて、コンテストにも力をいれていく。また、講話などは違う学科の話も聞けるような選択制も導入することにより、生徒たち自身がプラスで学びたい意識を持たせる。

併せて、2024年度は教育指針である、あきらめない教育が改訂され、“「色々選べる」機会の強化”を大方針として学園として強化する。その為、City & Guilds の導入や、昨年に引き続きアイブロウの資格取得の機会など、カリキュラム以外に選択して学ぶことのできる美容知識も導入をしていく。

③ 特記事項

三幸学園の教育理念 『技能と心の調和』

④ 学校関係者評価委員会コメント

村田委員（美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科）

講演会の出席を促す方法として、講演会の参加前にいくら分の価値があるという事を伝える事によって参加率やモチベーションが上がる。参加の際に、申し込み用紙を作って書かせても良いのではないかな。

木田委員（トータルビューティー科）

「意識の高い生徒がより向上し、前向きになった生徒が、意識が上がりきっていない生徒と一緒に引っ張っていつでも良い事ではないかな。

荒川委員（美容科・ヘアメイク科）

会社でも毎週のように講演・セミナーを実施。その際、「前髪の〇〇セミナー」など絞ったのセミナーを開催している。「美容全体の学び」というより、ターゲットを絞ったのセミナーの方が圧倒的に需要と参加率が高くなっている。昨年度の参加者の声を後輩たちに伝えていくことも良いのではないかな。

サロンにセミナーの案内に行くが、営業に行くもの自身がセミナーを考えて説明している。生徒も主体的に考える事をやってみても良いのではないか。

西寺委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

高校では、選べるものを事前に決めた上で入学履修する。

ビューティーアートは選べる事が多いので、講演を受けられる事も当たり前になっているのではないか。講演の付加価値を付ける、仮に学生割引で1000円のところ100円にする等の方が価値があがるのではないか。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

教員数も約 150 人と多く、情報伝達に時間がかかる。年に数回実施される全教員での会議だけではなく、Microsoft Teams やメールなどを駆使し速やかな情報発信を実施しているが、周知するのに時間がかかってしまう側面もある。その一方で、2023 年度より出席簿をバージョンアップさせ、シンプルにかつ効率的に状況が把握できるようにした。

生徒の単位に関わる出席状況の把握はとても大切で、授業担当だけではなく担任メンバーや教務チームもタイムリーに把握が必要となる。

② 今後の改善方策

2023 年より実施した、WEB 出席簿を 2024 年度はさらに定着させていく。人的ミスと教務事務の作業効率化を目的として実施し始めたが、導入によりタイムリーに出席状況がデータベースで出力可能になった為、学校運営にさらに繋げていけるようにしていきたい。

連絡手段が便利になる一方で、一方的な情報伝達にならないよう、方針や方向性など思いや考えを伝える場として、教科会の実施方法を工夫しより密なコミュニケーションをとれるよう実施して行く必要がある。

また、2024 年から学校事務の中でも経理の機能については各校対応ではなく、地域で集約し学費・奨学金・経費などの管理が出来る体制が出来た為、よりミスなく経理業務を円滑に進められる予定。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

村田委員（美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科）

出席簿の打ち込みはとても効率がよくタイムリーに管理できるため良かった。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

サロンワーク授業において、産学連携の一環として外部講師による授業を実施した。現場を想定しお出迎えからお見送りまでの一連の流れの指導を受けた。進みたい分野のプロから指導を受ける機会があり大変良い機会となった。外部講師からの指導を受けられる機会が少ないため協力していただける企業様を増やしたい。

また、2023 年度よりトータルビューティー科で始まった、有給インターンシップ制度を実施した生徒、企業様の満足度も高く、就職や 2024 年度の受け入れにもつながった。一方で希望生徒が全員行けたわけではない為、もう少し協力企業を増やしていきたい。

また、現役の美容師の方や美容業界で企画運営をされている方などをお呼びし、学生のモチベーションが上がる現場の「リアル」な話を聞ける機会を設け、あわせて教員も講話により今の現場の声を知り知識をアップデートしていきたい。

② 今後の改善方策

トータルビューティー科は特にサロン様との交流の機会を増やし、自分達が努力して取得した資格を活かして、業界で働くイメージや自信をつけさせたい。

2024 年 5 月に外部講話をお呼びし、生徒のモチベーションアップだけでなく教員も自由に視聴できる機会を設けた。合わせて講話者の話も生徒が選択し聞く事が出来るようにした。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

荒川委員(美容科・ヘアメイク科)

実習では、実施や強化してほしいポイントなどを事前に明確に伝えてもらえると、サロンと連携して対応しやすい。

村田委員(トータルビューティー科)

過去インターンシップ制度で心が折れてしまった学生もいた。指導についたことがないスタッフが対応して、離脱してしまう生徒がいた場合、スタッフ自身も気持ちが落ち込んでしまう傾向があった。

事前のフォローも必要であり、慎重に対応すべき生徒もいる。

実習に行く生徒に対しては、現場で後輩指導するプロな訳ではないのでその点の落とし込みが必要。

西寺委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

実習先として、学校を理解し教育に力を入れている企業があるのであれば、そこに依頼をかけていくとよいのではないかな。

木田委員(トータルビューティー科)

過去、実習で洗濯だけで1日が終わった事もあった。今ではエステ体験を30分くらい実施、施術の見学などを取り入れている。実習、インターンシップでは社会人の厳しさを教える場ではなく、エステの楽しさを伝える、入職したいと思ってもらえる対応が必要だと考えている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

すべての学科において、コロナ退学者が増加している。

特にコロナ明けからの2年生の退学が増えており、主な退学理由として、目標喪失による退学となる。就職活動に向きあうにあたって進路に悩み異なる業界へと考える生徒が増えている。

また、通信制の出身の学生は登校する事自体レベルの高さを感じており、通信制の退学理由は心身耗弱が高い傾向がみられる

2022年 退学率 2年 7.2% 全体 10.1%

2023年 退学率 2年 9% 全体 13.7%

② 今後の改善方策

コロナがあげ、通常登校が増えてくると、学校に遅刻や欠席をし、周囲とうまくコミュニケーションがとれるか不安になる生徒も増え、早期発見が出来ないと退学に繋がることもある。

人前で注意を受けることだけではなく、褒められることも苦手な生徒が増えている。教員自身の生徒への対応方法のレベルアップを図りながらも、前向きに取り組んでいる生徒たちへコンテストの機会も増やしつつ、個へのアプローチにより退学を減らしていく

また、2024年からは通信制の生徒が増加したこともあり、トータルビューティー科では週4日登校のクラスも設置、集団の中で一人になることが出来る、一人集中スペースといったものを学内に設置する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

西寺委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

通信制高校は220校こえており、入学者は何が出来るとかということを考えて入学している。

通信の学び方として、学校によって登校日数は決められる。

飛鳥未来高等学校1人あたり80名の生徒を持っており、個別でのチャットのやり取りを実施している。徹底した寄り添いを行っている。

クラスの中の環境設定をしていく。先生といつでも話せるチャットを開いてみても良いのではないかと。メールでもハードルが高いかも知れない。

入学者が何を目標として大阪ビューティーアートに入学しているのか、個人のゴールに合わせてフォローをしていくことも良いのではないかと。

村田委員(トータルビューティー科)

生徒の感情の起伏は日によって大きく変わっていく。学び中に、エステの授業を学んでいるがエステティシャンに全員がなりたいわけではなかった。

悩みに対しての相談を出来る環境をもっと作っても良いのではないか。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

自分の考えにあったサロンマッチングやキャリアプランを構築しそれにあつた企業様へのエントリーを進められるよう、年間通して企業様と接する機会を多く設けた。このようなマッチングをしっかりと実施し企業様にとつても求める人材が就職できるようにすすめたい。動き出しの遅い生徒も、選び方を理解することでスムーズな就職活動が出来ると考える。

最近では、多様化に伴い様々な場面で合理的配慮が必要な生徒が増えているので、対応が出来るようにしていく必要がある。

② 今後の改善方策

トータルビューティー科の特にメイクの求人が活発化してきているとはいえ、希望者人数も増えている中で1人でも多くの生徒が、希望企業での内定をもらえるよう、教員のサポートが今まで以上に大切になっていくと感じる。

合理的配慮に関しては、どのような配慮が必要なのかを教員が把握し統一した指導や対応が出来るように、昨年度に引き続き報告用紙をまとめて作成する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

荒川委員(美容科・ヘアメイク科)

美容業界では性同一性障害の方の配慮は必要がない程、受け入れ態勢が整っている。

会社では、本人の希望などによって部署異動などの対策は取っている。

村田委員(トータルビューティー科)

前のサロンは、エステの中でもお客様に対しては手術をしていれば可能というルールもあった。

精神的な配慮においては、一人で接客する事も多いので働くとなると難しくなることもあるケースもある。

西寺委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

ずっとヘッドホン・フード・帽子かぶっていないと難しいという生徒もいる。

保護者の方とも連携を取って進路や就職の相談を行っている。

木田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

採用の段階では、健康診断や身体に関する事で面接の合否を決めることも難しい。

心のサポートが必要な場合は、個別のサポートや、シングルマザーの方のシフトの考慮などチームとして対応を行っているケースも見られる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

選べる研修がスタート。海外研修では韓国研修もしくはヨーロッパ研修を選択することができ、参加者の満足度はとても高かった。2024年度は選べる国内研修もあり7月には大阪研修も開催される。姉妹校の生徒達と共にサロン調べや技術を学ぶことはお互いにとっていい機会になると考える。

また、基本的な接客スキルを身に付ける機会を日ごろから増やしたいと考える。授業を通して習慣化できるように促したい。

② 今後の改善方策

学びのきっかけは多方面で与えてはいるが、研修の希望者が少ない様に感じているため、生徒だからできることや、将来に繋がることをイメージさせる導入が必要と考える。

③特記事項

2024年4月に、2階カット室を全面改装。清潔で非常に明るいイメージに仕上がっている。
Wi-Fiを2023年度バージョンUPし、各クラス快適に使用できるように環境設定を整えた。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

2024 年度入学生 美容科 208 名 ヘアメイク科 111 名 トータルビューティー科 188 名

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ。

② 今後の改善方策

引き続き法令等遵守をしていく。

③特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

外部でのボランティアを多く実施し、生徒たちの技術披露の場を設けた。また、産学連携を強化したことにより地域の盛り上げにも貢献した。しかし、美容関係で多くのボランティアやイベントにお声がけいただくが、実際にお互いにとって win-win になるボランティアの精査を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

生徒が実施するサロンワーク授業などで、地域の方や広く一般の方にぜひお客様として学校にお越しいただきたいと考えている。まだまだプロの技術というわけにはいかないが、かなり技術力も上がった生徒たちの接客や技術を是非受けていただきたい。

その上で、学校としても企業連携を深めより生徒にとって学びとなり、地域にも貢献できるものを取り入れていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

毎年、数名留学生が入学する。日本での就職を希望しているが、就職支援が難航している。言葉の問題というよりは就労ビザの問題が大きい。併せて、日本語の難しさから学ぶことにモチベーションが下がる生徒もいる。

② 今後の改善方策

引き続き、受入れ可能な企業様にご依頼する。

また、同じ留学生の上級生との交流を実施し、語学問題含め日常の悩みなどを相談できる場も作って行きたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

村田委員(トータルビューティー科)

新しい世代の方の方に対して、入りやすいサロン作りもしていきたいと思った。

木田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

敬語が苦手な子が非常に多くなっている。2年目の社員が驚くほど、敬語が出来ない新入社員もいるのでお客様に対して敬語が出来るようになる、教育があると良い。

職場では同期同士でも敬語を使って練習をしているように伝えている。

西寺委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

実体験として、実際のサロンにおいても技術は優れているが身だしなみや社会人マナーが備わっていない店舗もあるので、技術だけでなく社会人としての育成も両立できるよう高校でも引き続き教育的指導を行っていく。

荒川委員(美容科・ヘアメイク科)

VIP 客に対して、年始にパーティーを開いている。そこで、「ゆるブラック」について講演があった。近年では、「出来ない事が個性」として育てている子が増えている。社会で苦しむことになるので育てなければいけない。

ゆるブラックは、何も言われぬスーパーホワイト企業の事をさすが、そのような企業こそ辞めていくケースが多い。このように現場の流行や傾向は日々変化していくので、引き続き美容現場と学校との架け橋となれるよう情報共有をしていきたい。